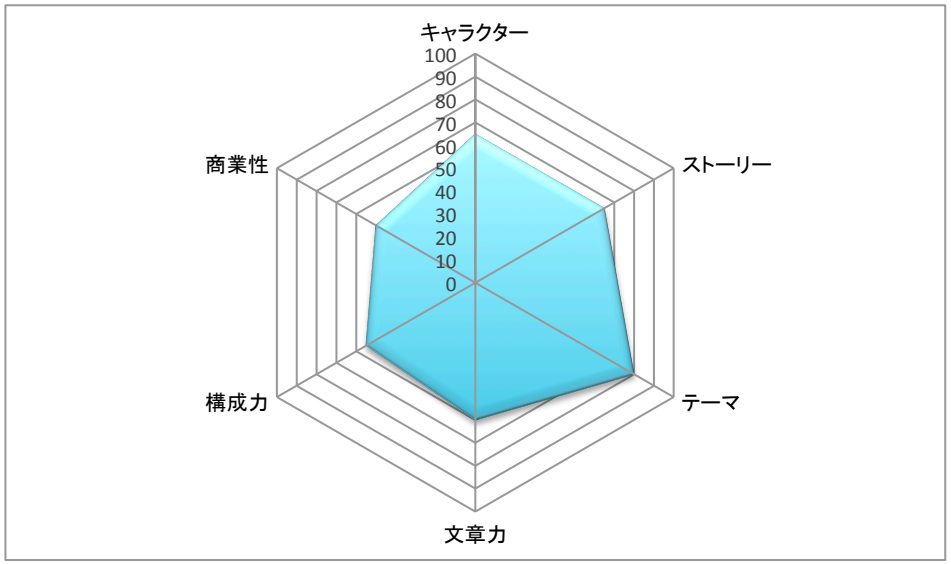
第1回　ライトノベル作法研究所主催　大夏祭り大会　選評評価シート

作品名：「姫騎士エステルとムン族のアティーラ」　　テーマ：「一見ヒロインぽいのに、実はヒロインではない、でも色々あってヒロインになってしまう美少女」

キャラクター	ストーリー	テーマ(設定)
65	65	80

文章力	構成力	商業性
60	55	50



・見受けられる基礎的な問題点

	・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
	・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
●	・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
	・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
	・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がりに欠ける
	・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
	・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
	・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
●	・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
	・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
	・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
	・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
	・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
	・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
	・「この作品の最大の魅力はこれ！」というものがない

・総評（もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話）

・評価しているこちらの個人的な事情として非常に世界史が苦手であるため、もしこの作品が実際の過去の歴史とのオーバーラップを楽しめる作品であった場合その点については一切評価に入れられていません。申し訳ありません。
・この作品の魅力が世界観の繊細且つ重厚さにあることは作者様が一番よく理解していると考えられるので詳しくは割愛するが、個人的にはその設定を表現する英語和訳的な文章が特に非常に巧いと感じた。「麦は籾殻を取り払われるだろう」という英語的な受動表現や「監視塔は外敵の素早い発見、および迎撃に貢献している」といった無生物的な主語の使い方はどこか和訳されたノンフィクションの歴史書を読んでいるような錯覚を感じさせてくれて非常にわくわくしながら物語に入り込めた。
・逆に世界観設定にこだわり過ぎたためか、人物の動機や背景には少し穴が目立ったように思えた。とりあえずムン族に責めさせておくか、それでエステルの父親にとりあえず降伏させておいて娘売っといて、アティーラに勝たせておこう！　のような、ストーリーねじ込み感が目立つ。こちらとしては「なんで攻めてるの！？」「降伏はや！」「ここで終わっちゃったよ！」等の突っ込みを入れざるをえないテイストになっているため、作品を書く前に基本的なキャラクターの動機は設定しておくべきだったのではないかと感じる。（ストーリー自体は最高に面白い。本来敵同士であったはずの男女が繋がるという設定は本当によく活かされていると感じた。＋2）

合計加点ポイント 2

総得点：　375 / 600

B方式総合得点：　23638 点